

“エアロマート名古屋2021”

JA2024 開催をPR／全国航空機クラスター・ネットワーク出展

国際航空宇宙展2024（JA2024）の開催告知および全国航空機クラスター・ネットワーク（NAMAC）による販路開拓支援等を主目的として、2021年10月12日（火）～14日（木）にかけて愛知県国際展示場で開催された“エアロマート名古屋2021”に出展・参加したので紹介する。

1. “エアロマート名古屋2021”の概況

(1) 開催概要

開催日程：2021年10月12日（火）～14日（木）

開催場所：愛知県国際展示場

（Aichi Sky Expo）ホールF

（愛知県常滑市）

主催者：フランス advanced business events

（BCIエアロスペース）社

(2) 展示・商談会の概況

“エアロマート”は、フランス（トゥールーズ）やアメリカ（シアトル）、カナダ（モントリオール）など世界の航空宇宙産業集積都市で開催されている航空宇宙分野の世界的なビジネスマッチングと展示会を統合したイベントであり、日本での開催である“エアロマート名古屋2021”は、2014（H26）年以来今年で4回目を迎えた。

製造サプライチェーンにおける参加者間のオープンマッチングにより、新たな商談とネットワーク構築の機会が提供されるもので、愛知県常滑市の愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）のホールF（総面積 10,000㎡、利用面積 6,000㎡）を使用して、リアル形式とオンライン形式を活用したHYBRID形式で実施された。

展示場内には出展各社の展示に加え、商談やオンライン会議用Boothの他、セミナー／

ワークショップ会場も設置された。

開会時には、大村愛知県知事によるご視察も実施された。

基調講演は、海外からのオンライン講演を含め、次のテーマ分野・講師により行われた。

「市場動向 & 国際協力」

経済産業省 製造産業局 航空機武器宇宙産業課

航空機部品・素材産業室長 宮越 朗 氏

General Atomics Global Corporation,

Chief Executive Vivek Lall 氏

愛知県 経済産業局

産業部長 川村 正人 氏

「サプライチェーン～チャレンジ & チャンス～」

ノースロップ・グラマン・ジャパン

ディレクター 小川 修子 氏

Collins Aerospace, Military Avionics & Helicopters, Japan,

Senior Representative Dylan Monaghan 氏

Israel Aerospace Industries (IAI) , Supply Chain,

Deputy COO & Director

Tomer-Aharon Cytter 氏

（一社）中部部品加工協会

代表理事 村井 正輝 氏

「イノベーション & 最新技術」

ボーイング・インターナショナル
 インダストリアル・リレーションズ &
 スペシャル・プロジェクト担当
 ディレクター 益田 直子 氏
 三菱重工業株式会社
 技監・技師長 田中 博幸 氏
 川崎重工業株式会社 航空宇宙システムカ
 ンパニー
 フェロー（役員） 酒井 昭仁 氏
 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
 (JAXA)
 宇宙探査イノベーションハブ・技術領域
 主幹 上野 宗孝 氏

今回の展示・商談会の開催規模等、他の展
 示・商談会との比較を以下に示す。

出展は、開催地の中部地方をはじめ、各地
 方のクラスター等の航空宇宙分野の産業振興
 組織を中心とした多くの団体が実施し、そこ
 に中小サプライヤーが加わる形で多数の参加
 があり、個々に参加した企業と共に、積極的
 なビジネスマッチングが行われていた。

また、今回の商談会では、通常の面談（Face
 to Face）形式による商談に加え、事務局が準
 備したオンライン会議用Boothを活用した海
 外企業との商談を中心としたオンライン商談
 も実施された。

海外からの出展は、仏国2組織と日欧産業
 協力センター、韓国1組織に留まった。

今回の展示・商談会は、新型コロナウイルス
 の新規感染者の減少傾向の環境下、感染防
 止対策が徹底されて満を持しての対面形式の
 展示・商談の場となり、それまでに実施して
 来たオンライン・コミュニケーションを補完
 し充実させる形で、地理的に離れた企業を含
 めた多くの企業間の、現物を手に取りなが
 らの対面形式での商談が大きな成果を上げて
 いる様子であった。

また、新型コロナ禍以前に参加した海外の
 展示・商談会で得たネットワークを活かし
 て、海外企業とのオンライン商談を進める企
 業もあり、新型コロナ禍を背景とした参加者
 全体のオンライン活用練度の向上を背景に、
 HYBRID形式の効果が十分に発揮されたと感
 じられた。

“エアロマート名古屋2021”（HYBRID）開催規模 比較

	エアロマート名古屋 2021	エンジンフォーラム 神戸2020	エアロマート名古屋 2019	国際航空宇宙展2018 JA2018 TOKYO
参加企業 ・団体数	288社・団体 (出展：177社・団体)	201社・団体 (出展：102社・団体)	263社・団体	137社・団体
参加国数	17カ国・地域	17ヶ国・地域	19ヶ国・地域	15ヶ国・地域
会 場	愛知県国際展示場	神戸国際展示場	名古屋 吹上ホール	東京ビッグサイト
商談形式	面談 + WEB	面談 + WEB	面談	面談

(注記) エアロマート名古屋2021、エンジンフォーラム神戸、エアロマート名古屋2019：主催者発表値より。
 JA2018 TOKYO：BtoB商談会への参加数：展示会結果報告書より。



展示場入口 全景



展示場入口 検温／手指消毒



展示場入口 事前登録者確認



展示会 全景1



展示会 全景2



展示会 全景3



展示会場内のセミナー／ワークショップ会場



SJAC Booth 全景



クラスター出展 代表例1



クラスター出展 代表例2



欧州・仏国組織 出展



韓国組織 出展



オンライン会議用Booth



展示会会場 全景

今回の展示・商談会では、従来にも増してオンライン機能を活用した「VIRTUAL EXHIBITION：仮想展示会」が設置された。

まず、セミナーにて実施された講演および様々なワークショップ講演が、事前登録参加者向けにリアルタイムで配信されたと共に、「オンライン基調講演会場」が整備され、展示会終了後も一定期間のアクセス・視聴環境が提供されている。

また、オンライン上に展示ブースを模して展開・再現した「オンライン展示場」が、所定のグループ毎に整備され、そこでは、個々の出展者が情報を提供する「オンライン展示ブース」が用意され、一定期間のアクセス・閲覧環境が提供されている。



オンライン講演会場



VIRTUAL EXHIBITION



オンライン基調講演会場 例



オンラインワークショップ会場 例



オンライン展示場 (1/2)



オンライン展示場 (2/2)



オンライン展示場 例：日本 展示場



SJAC展示ブース

「オンライン展示会場」には、「愛知・名古屋」、「中部」、「九州・山口・岡山・沖縄」、「日本」、「韓国」および「EU-USA-ASIA」の6つの地区グループと、同時開催の「IMM 名古屋 (Innovative Material Meetings Nagoya)」の合計7つの「オンライン展示場」が整備されている。

2. “エアロマート名古屋 2021”における活動概況

(1) SJACの活動概要の紹介

昨年来の世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により、航空宇宙産業を主題とした大規模な対面形式の展示・商談会としては、長期間の自粛後の満を持しての開催であること

から、出展・参加されている多数の企業・組織・個人に対して、SJACの活動を紹介した。具体的には、SJACの組織および活動の概要、ならびに航空宇宙業界の動向等を紹介する冊子の配布、さらにその冊子の情報を閲覧できるサイト情報（QRコード）を掲載したチラシの配布を行った。

(2) JA2024 開催のPR活動

SJACは、当初予定していたJA2021の開催を、東京オリンピック・パラリンピック開催延期に伴い中止し、さらに世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による航空宇宙産業への影響を考慮した結果、次回の国際航空宇宙展が2024年の秋の開催となったことの説明を主目的として、JA2024ブースを出展した。

今回の商談会では、JA2024開催の周知活動を、後述のNAMAC活動に関連するサプライヤー／クラスター／それらを支援する各自治体／公的機関等の多数の組織との対面での面談 および 2つの海外企業とのオンライン面談を通じて実施した。

結果として、事前予約の15組織に加え、会場での企業等の展示ブースへの直接訪問によりPR等を積極的に実施し、JA2024に向けた開催告知を行うことができた。

また、少数ではあったが、これまでSJACとの接点が少なかった異業種分野の企業・団体へのJA2024開催に関する説明機会も得ることができた。そこでは、今後の事業拡大要素として航空宇宙分野にも注目頂くことができ、JA2024への出展可能性検討の良い機会としてとらえて頂いた。

(3) 全国航空機クラスター・ネットワーク (NAMAC) による出展

SJACが行っている「全国航空機クラスター・ネットワーク (NAMAC)」の枠組み

に基づき、全国の航空機中小サプライヤーおよびクラスターの活性化を通じた、SJAC会員企業を含むサプライチェーンの強化を主目的としてNAMACブースを出展し、主に以下の活動を実施した。

- ①全国の航空機クラスターの紹介：約900社の参加企業による、47クラスター
- ②NAMACポータルサイトを通じた、様々な支援活動の紹介：専門家紹介・情報共有等

メンバー企業やクラスターとの面談がやっと叶い、現在の主要活動である「航空機中小サプライヤーの声を聞く会」のフィードバックや、新型コロナ禍を乗り越える創意工夫や新たな制度・取り組み等に関する情報交換が面談での中心的話題となった。NAMACでのメルマガ配信やポータルサイト掲載による情報発信・提供を通じて、企業間の商談機会が増加したといった声も具体的に聴取でき、NAMACのネットワークや機能を活かした相互協力の可能性が大きいという意識を、多くの企業・団体と共有することができた。

3. 所感

新型コロナ禍において開催された展示会および商談会ということもあり、主催者・出展者による感染防止対策が各所に施されていた。

前述の通り、満を持しての対面形式での展示・商談会のため、多くの意欲的な企業・団体の出展があり、多数の来訪者を迎え、出展者相互を含め多くの商談が実施され参加者の熱気が実感できる展示・商談会であった。

展示の面では、新型コロナ禍の影響により比較的小型の展示品が主となり、中・大型の品物の展示は今後に期待するものとなったが、商談の面では、今回は面談による商談に加え、オンライン上にヴァーチャル展示会場

が構築され、イベントと同時並行で、および、終了後も出展者同士や来訪者等の間で情報交換・共有を行うことが可能な機能が提供される等、新型コロナ禍における新たな展示会の形の試みも徐々にその成熟度を増し成功していると感じた。

新型コロナ禍の影響は未だ大きく残るため、企業として生き残るために遭遇した災禍の傷を相互に癒しあうことから、今後のより良い対処・協力方法を探る話し合いが話題の中心となっていた。海外からの会場での出展者・来場者は非常に限られてはいたが、オンラインを活用した海外からの参加が充実しており、会場出展者もオンライン参加者も共に効果的にその活用のレベルを向上させていると感じた。

入場受付の混乱を避け参加者把握に効果的な事前印刷した入場証の持参や、過去の同様なイベントに用いた情報と連携したVIRTUAL EXHIBITION用の情報管理、また、整然としたオンライン会議の運営等、JA2024実施に向けて多くの面で参考となった。

SJACでも、対面形式およびオンライン形

式を活用したHYBRID形式の様々な活動への効果的な適用方法を更に模索して行くべきと感じた。

今回も、東京オリンピック・パラリンピック開催延期に伴うJA2021の開催中止、また、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大による航空宇宙産業への影響を考慮し次回の開催が2024年の秋となったことの説明、並びにNAMAC活動を通じたサプライチェーン強化を主目的として参加したが、商談会への出展者・参加者・各関係者に対して、JA2024およびNAMACの存在を知ってもらう良い機会となった。

今回オンライン形式の利点を再認識する機会となったが、従来型の対面形式による展示・商談会が、先に広がる大きな可能性を発見できる場であることには変わりがなく、オンライン活用を通じたHYBRID型でより大きな相乗効果が得られるものである。

このためにも、早期の感染症の終息により、世界各国からの出展者・来訪者が参加できるノーマルな商談会が開催可能となることを期待するものである。

〔	(一社) 日本航空宇宙工業会	調査部	部長	澤井	規行
		調査部	部長	平上	雄一
		調査部	部長	櫻井	浩己
		国際部	部長	羽中田	実
〕					